



® 平成 29 年 6 月 22 日 (木)

No. 14471 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆社会変革を興すIoT・AIと知的財産 ー第2回ー
AI技術に関する発明の特許法による権利化の動向 (1)

☆知的財産関連ニュース報道(中国版)…… (10)

☆[随筆] ダンバー数と組織…………… (12)

社会変革を興すIoT・AIと知的財産 ー第2回ー

AI技術に関する発明の特許法 による権利化の動向

東京理科大学専門職大学院 平塚研究室フェロー 弁理士 中畑 稔

東京理科大学専門職大学院 平塚研究室フェロー 弁理士 小林 和人

東京理科大学専門職大学院イノベーション研究科知的財産戦略専攻 教授 平塚 三好

1. はじめに

(1) IoT技術の登場と人工知能技術の進展

モノとインターネットを接続するIoT (Internet of Things) 技術の登場に伴い、多くのモノから得た様々な種類のデータを自動的に分析・判断し

最適な情報を出力する人工知能 (Artificial Intelligence: AI) 技術の進展が目覚ましい。AI ブームはこれまで2度起こっており、昨今のビッグデータの時代に広がった機械学習と、技術的に大きなブレイクスルーであるディープラーニングの2つの大波が重なって、昨今の3回目のブームが到来した(図1)¹。



知的財産の戦略強化を図ります®

特許業務法人

岡田国際特許事務所

会長 弁理士 岡田 英彦 (訴訟)

パートナー補 弁理士 佐久間 卓見 (機械)

副所長 弁理士 安藤 徹 (物理)

弁理士 太田 直矢 (バイオ)

弁理士 森山 照規 (機械)

所長 弁理士 服部 光芳 (機械)

パートナー補 弁理士 矢代 加奈子 (商標)

相談役 弁理士 福田 鉄男 (機械)

弁理士 加藤 圭一 (バイオ)

米国パテントアトニー ロヒト・デワン

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目10番19号(名古屋商工会議所ビル内)

TEL 名古屋(052)221-6141 FAX(052)221-1239

URL <http://www.okada-patent.gr.jp>

(2) 出願推移

「機械学習 (マシンラーニング等の関連語も含む)」及び「深層学習 (ディープラーニング等の関連語も含む)」の語が出願書類中に存在する特許出願の件数をグラフに示す (検索式= S 1 : 全文 {機械学習 or マシンラーニング or マシン・ラーニング or マシンラーニングor マシン・ラーニング} or S 2 : 全文 [{深層学習 or ディープラーニング or ディープ・ラーニング}])。「機械学習」の語を含む出願件数は2000年から急激に増加しており、2013年頃からは「深層学習」の語を含む特許出願件数の立ち上がりが見て取れる (図2)。

(3) 本稿の論点

しかしながら、これらの技術に関して、どのような権利によって保護し、取得した権利をどう活

用すべきかについては未だ深い議論がなされていない。そこで、本稿では出願件数の蓄積のある「機械学習」を利用した技術に関して、仮想的な検討モデルに基づいて要素毎に特許事例を調査し、特許制度による保護及び利活用のあり方の整理を行った。

2. 特許事例と保護方法

(1) 検討モデル

一般的な機械学習においては、テキスト・画像・動画等の「ローデータ」、これを加工して教師データを生成する「教師データ生成技術」、生成された「教師データ」、教師データの機械学習を行う「AI装置」、そしてAI装置によって生成される「AI生成物」が要素として存在する (図3)²。

図1：第3次AIブームのビッグウェーブ

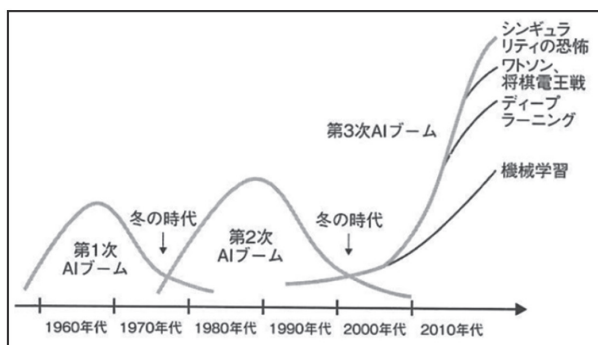


図2：出願推移

